

【教員氏名】

鈴木 健

【単位数】

2 単位

【演習概要】

天皇と天皇制（天皇を中核とする支配・統治システム）は日本における王権の在り方として1400年以上の歴史を持っている。王権の在り方が変わらずに続いてきたとか、現在もなお王制の延長上で支配・統治システムが動いているというのではない。古代に確立し、中世、近世、近代、現代にいたるまで時代の変化に曝されながら、ともかく天皇・天皇制は存続してきた。時代の変化が天皇・天皇制の変容を要請したとみることできるし、時代の変化に対応して天皇・天皇制が自らを変化させてきたとみることできる。

本講義は、日本における王権・王制の形態である天皇・天皇制が現代にいたるまで存続し続けるのは何故か、何が天皇・天皇制を存続せしめてきたのかという問題を、古代、中世、近世、近現代の支配・統治制度の変遷という観点から検討することを課題としている。

【学習目標】

本講義は、天皇制が日本列島における王権支配の特殊な形態として確立、定着し、時々の「実権」を掌握する者たちによって支配の正当化の根拠として利用されてきたという事実、ならびに、そのようなものとして利用されたのはなぜかという問題に関する受講生の理解を明瞭にすることを目標としている。天皇制について無自覚なままにイデオロギー注入されてきた受講生の意識の中に、天皇制に関する知的転換を惹き起こすことを目標としていると言いつても良い。

【講義計画】

第1回：ガイダンス、王制が成立した時代、日本はどのような社会だったのか

第2回：日本の王朝も何度か交替した

第3回：王権（王位）はどのように継承されたのか

第4回：王の統治権力は王制官僚によって執行された

第5回：天皇制国家の制度的確立

第6回：藤原氏は事実上の天皇（制権力の執行者）であった

第7回：天皇制権力の胎内で成長した武家勢力

第8回：公家政治から武家政治への過渡期

第9回：武家が権力の中枢を掌握する時代の始まり

第10回：鎌倉幕府体制から室町幕府体制へ

第11回：戦国時代の天皇制

第12回：織豊政権と天皇制

第13回：徳川幕藩体制下の天皇

第14回：大日本帝国憲法体制下の天皇制

第15回：第二次大戦後の環境適応としての象徴天皇制

【成績評価の方法】

試験評価：100%

講義中に行う5回のテストを4回以上受験し、300点以上の得点を得た者を合格とする。

【参考文献】

講義中、適宜紹介します。

【準備学習の指示】

講義は、配布するレジュメに即して行います。その都度参考文献を紹介いたしますから、できるかぎり参考文献を読むように心がけてください。